

無くそう思い込み、守ろう個性 みんなでつくる、みんなの未来。

令和6年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ

日常生活の中で、「男だから」やりたいことを我慢した、「女だから」言いたいことが言えなかった、という経験はありませんか？当たり前だと思ってきた男女の役割。ふとした無意識の発言や言動により、生きづらさを感じたり、可能性が狭められてしまうこともあるのです。

性別に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会。それが越谷市の目指す「男女共同参画社会」です。自分のため、そして子どもたちの未来のために、少しだけ「自分ごと」として、考えてみませんか。

「気づく」ことから始めよう



「男女共同参画」6つのキーワード

▶アンコンシャス・バイアス

日本語では「無意識の偏ったモノの見方」と表現されます。過去の経験や見聞きしたことにより自然に身につけてきたもので、それ自体が良い・悪いものではありませんが、当たり前だと思っていることが、実は「男だから、女だから」という考えに縛られている、ということがあるかもしれません。

▶固定的な性別役割分担意識

少子高齢化が進む現代社会。家族のあり方や個人の価値観の多様化など、社会経済の情勢が大きく変化している中で、「男性は仕事、女性は家庭」といった性別による固定的な役割分担にとらわれずに、あらゆる分野で性別にかかわらず活躍できる社会づくりが必要となっています。

▶「参画」ってなに？

「参加」はある目的をもつ集まりの一員として行動を共にすること、「参画」は政策や事業などの計画に加わることを意味します。町内会などの集まりに出席するのは「参加」ですが、自分の考えを発言したり、企画・立案の段階から積極的にかかわっていくことが「参画」となります。

▶男性版産休制度

男性の育児休業の取得促進が課題とされていますが、まだまだ取得率は低いようです。取りやすい状況になるよう、国は育児休業法を改正し、令和4年10月から「男性版産休」と呼ばれる制度が始まっています。



▶性の多様性

LGBTをはじめとする性的少数者の割合は左利きの人と同じくらいとも言われ、決して特別な存在ではありません。性自認や性的指向による生きづらさを抱えた方たちへの支援として、越谷市では「パートナーシップ宣誓制度」「ファミリーシップ登録制度」を実施しています。



▶ドメスティック・バイオレンス(DV)

夫婦や同棲相手など、親しい男女間で起きる暴力のことを言います。殴る・蹴るだけでなく、精神的、性的、経済的暴力など様々。また、子どもの前でのDVは児童虐待にあたります。

近年では若年層の「付き合っている」相手からの暴力(デートDV)も深刻な問題となっています。

小学校3年生の保護者のみなさま

小学校低学年から中学年にかけては、身体の発達に男女差が見えはじめ、心も体も幼児期から大きく変化していきます。今まで従順だった子が反発したり、自己主張が強くなったりといった自我の芽生えや、親をはじめとした身近な大人よりも友達付き合いを優先し始める時期でもあります。

あれこれ口出ししたくなるのがオヤゴコロ。でも子どもに教えるのと同時に、私たち大人も、自分自身のこと、見直してみませんか？



家事・子育て・介護は誰の役割ですか

子育てをする男性は「イクメン」、子どもがいて働く女性は「ワーママ」と呼ばれることがありますが、それぞれ対応する女性、男性を表す言葉はありません。育児する男性、働くママは特別なのでしょうか？

夫の家事・育児時間は年々増加しているものの、妻と比較すると低水準の状況にあり、家事や育児の負担がいまだに女性に偏っているのが現状です。男性の働き方の改善も求められるところですが、同時に「男は仕事、女は家庭」という性別的な役割分担意識を変えていくことも大切です。

同じ子どもなんて、一人もない

毎年、様々な企業による「子どもの就きたい職業ランキング」が公表されますが、近年では上位に「YouTuber」が入るなど時代や社会状況が反映されるようです。一方、男の子の「スポーツ選手」「警察官」、女の子の「保育士」「パティシエ」は根強い人気があります。しかし、男の子だから、女の子だからという大人や周りのイメージで、子どもを知らず知らずに誘導していることはないでしょうか。

スポーツ選手として活躍する女性も、保育士として働く男性も増えています。大人や周囲がイメージにより決めつけることなく、その子の個性や好きなことを尊重し、伸ばしていけると、子どもの可能性はさらに広がっていきます。

こんな思い込み、ありませんか？

- ✓パートナーの呼び方は「主人／旦那」「奥さん／家内」？
- ✓働いて家族を養っているから、家事はしなくてもいい？
- ✓女性なら料理ができて当たり前？
- ✓PTAに参加するのは女性、でも会長は男性？
- ✓「女の子だから」言葉づかいや行儀について注意する？
- ✓「男の子だから」本を読むよりスポーツをしたほうがいい？



男女共同参画苦情処理委員

「性別を理由に、学校や職場で差別されている」「市がやっているこの事業、男女差別になってない？」

市ではこうした申し出を適切かつ迅速に処理するため、苦情処理委員を設置しています。

苦情処理委員は中立・校正な立場で市民の申し出を処理します。一人でも申し出が可能です。

また、プライバシーは守られます。詳しくは市のホームページをごらんください。

